

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 6月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270500016
法人名	株式会社 スルガケアサービス
事業所名	グループホーム AMBIK
所在地 (電話番号)	413-0101 熱海市上多賀967-24 TEL 0557-67-1177
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年4月16日

## 【情報提供票より】(平成20年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 4.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄筋 造り	
	3 階建ての	階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(24万~39万円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(平成20年 2月 1日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅園ヘルスケアクリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眺望の良い高台に立てられたホテルを改装したホームである。1階にデイサービス、3階に高齢者住宅を併設しており、多機能で小回りの効く事業所となっている。1フロア1ユニットという目の行き届く環境で入所者は自分らしく安寧な生活を送っている。また管理者、職員は、グループホームの意義をよく理解し、質の高いホーム作りに努めており、外部評価への取り組みも意欲的で、前回の要改善項目は、ほぼ改善されていた。アンケートによる家族の評価も高く感謝の声が上がっている。今後は一層の地域交流、同業者交流を通じ、更に質の高いサービスの提供、地域密着型サービスの社会的地位の向上に努める事が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	研修委員会、地域交流委員会が新規に設置された。また、手すりの設置が困難な場所では据え置き型の手すりを置く等、前回評価の要改善項目は全職員により良く検討され、ほぼ改善されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員が全員で取り組むことで業務改善意欲の向上を図っており、評価の意義を充分理解している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、入所者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加している。ホームからの現状報告、行政からの行事の案内の他、入所者、家族からの意見も述べられる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、苦情窓口の充実等、前回評価より改善された項目である。職員は日常のコミュニケーションからも希望や不満を汲み取ることを心がけ、日々のカンファレンスで迅速に業務に生かす連携が出来ている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会、文化祭等への参加、また近隣の授産所との交流もあり、意欲的に地域に出る姿勢があり地域の行事等への参加意欲は高いが、ホームへの訪問者が少ない。定住者の少ない地区ではあるが、積極的に地域にアピールすることで、気軽に訪問できるホームとなることが望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「一緒(とも)に作る笑顔」となっており、一緒(とも)には地域も含まれて理解されている。定住者の少ない山間ではあるが、管理者、職員ともに地域に密着したホームとなるよう努力を惜しまない姿勢が見られた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念をよく理解しており、日々のサービス提供に生かす努力をしている。日々のカンファレンスや定期的な会議の場において理念の共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会、文化祭等への参加、また近隣の授産所との交流もあり、意欲的に地域に出る姿勢があるが、ホームを訪れる地域住民は少ない。	○	地域の行事等への参加意欲は高いが、ホームへの訪問者が少ない。定住者の少ない地区ではあるが、積極的に地域にアピールすることで、気軽に訪問できるホームとなることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の要改善点は全職員により検討され、ほぼ改善されている。今回の自己評価においても職員が全員で取り組むことで業務改善意欲の向上を図っており、評価の意義を充分理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、入所者、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加している。ホームからの現状報告、行政からの行事の案内の他、入所者、家族からの意見も述べられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが市の直轄であることから、市とのパイプが太い。運営推進会議以外にも市との連絡が充分行なわれており、常に市と協働していく体制が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	管理者は家族への報告として、不定期のホーム便り、運営推進会議への参加要請等、頻回の連絡を実施している。以前は毎月の請求書に親書を添えていたが、直接話をする機会を作る事を目的に一時休止している。家族との絆は強い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情窓口の充実等、前回評価より改善された項目である。職員は日常のコミュニケーションからも希望や不満を汲み取ることを心がけ、日々のカンファレンスで迅速に業務に生かす連携が出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年間退職者がなく、1フロア1ユニットという環境の中で家族的で密着したサービスが提供されている。入所者は馴染みの関係の中で安寧な生活を送っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は活発で、ホームの負担にて外部研修を受ける事が出来るシステムを持っている。研修を受けた職員は伝達研修を行い、全職員が共有することでサービスの質の向上に努めている。職員の学習意欲も高い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域包括支援センター主導での同業者交流がないため、自主的に横のつながりを持ち交流を持っているが、管理者レベルの業務的で表面的な交流に留まっている。	○	同業者同士の交流によって得られる、気付きや学習の機会を持つ事が望まれている。市内最古参のホームとして、今後同業者ネットワークの中核となることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	問い合わせから入所に至るまで、相談や見学を重ね、十分に納得のうえ利用する手順を大切にしている。併設の高齢者住宅を利用した体験宿泊も実施しており、ホームに馴染み、利用する体制が整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入所者を「知恵袋・生き字引」と称し、高齢者から学ぶ姿勢を持っている。入所者が職員を労わる場面も見られ、お互いに支えあう家族のような関係が構築されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、入所者や家族の話を良く聞き、適切にアセスメントされている。また異動の少ない顔馴染の職員と入居者との、何気ないコミュニケーションの中から各々の思いや望みを良く引き出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの聞き取り、アセスメント票、利用者の毎日の記録を基に、全職員で良く検討し、各々の利用者に応じた介護計画を作成している。しかし本人、家族の思いや希望の記載、計画への反映についてはやや不足する面が見られた。	○	現状の介護計画においても良く工夫され努力しているが、今後はアセスメント票や計画書等の書式や記載方法を工夫する等、入所者や家族からの意見や希望の聞き取りに重点を置くことで、更に利用者本位の計画となることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについて改善された項目である。「介護計画見直しシート」が作成され、計画を毎月見直す体制が整ったことで、常に現状に即した計画への見直しが可能となった。急変時の介護計画の見直しは随時、迅速に実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	来客や家族への宿泊、食事の提供、入所前のかかりつけ医への受診介助、併設のデイサービスとの交流、また市内名所への遠足等、事業所の機能を生かした、多様なサービスの展開が可能となっており、家族からの評価も高い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の選択は入居時に選択できるシステムとなっている。入所前のかかりつけ医への受診支援の他、協力病院である梅園ヘルスケアクリニックの往診が月2回実施されている。また併設ディサービスの看護師との協力体制もあり、迅速な医療サービス提供の体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去1名の看取り経験があり、現在もターミナルケアを実施中である。職員の拒否もなく環境は整っているが、運営者、管理者の経験的実践のみが先行しており、関係書類の整備がなく、マニュアル化もされていない。	○	家族や関係医療機関との連携、本人、家族の希望の確認、同意等、ターミナルケアに関するマニュアルの作成、またトラブルを防止する上で必要な関係種類の整備が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、大きな声を出さない等高齢者の尊厳を守る姿勢で対応しており、プライバシー尊重の精神は全職員に徹底している。建物が元ホテルのため、プライバシーの保護を基に造られており、全居室にトイレがあるなどハード面での利点となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な生活や時間ごとの行動予定はある程度決まっているが、あくまでも予定であって、日々の生活が各々のペースに合わせ、本人の希望する方向で楽しく過ごせるよう支援していく姿勢が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師の指導および入所者の希望も取り入れ献立が決められる。買い物への同伴や配膳、下膳にも入所者が関わり、食事の前後は楽しげに賑わっている。2ヶ月に1回程度のペースで外食会を開いていたが、体調不良で外食を楽しめない方への配慮で、現在は間隔をおいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の状況、希望にあわせ、随時入浴の支援を実施している。入浴を好まない方でも、週2回以上の入浴を心がけ、声かけをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの習慣や生活歴により、家事等(掃除、洗濯、食事の用意、片付け、買い物)を分担している。また、市の移動図書館の巡回コースとなっており、定期的に書物、CDなどの貸し出しを受けられる。現在も更なる楽しみ支援を模索中である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の入所者の希望に沿って、外気浴や近隣への散歩、買い物、外食に加え、季節のイチゴやミカン狩りなども実施している。また、併設デイサービスと合同のバス遠足等も充実しており、家族の参加も働きかける工夫もしていきたい、という意向も示されていた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階に位置しており、1階はデイサービスが併設されている。エレベーターは居間や事務室前を横切る構造で職員の目に触れるため玄関の施錠はされていない。非常階段には洒落た鈴が戸に絡み、出入りが管理されている。夜間の防犯目的以外での施錠はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災と避難訓練は建物全体(合同)で年2回実施している。元ホテルであることから、建物全体にスプリンクラーが設置され、通報装置は消防署に直結されている。火災に対する備えは万全であるが、地震その他の災害に対する備えが不十分である。	○	日中は併設デイサービスの職員もおおり問題はないが、夜間帯での防災対策が手薄となっている。近隣住民の協力体制や災害時ネットワークの構築が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師の指導により栄養バランス、食事分量、各々の健康状態に合わせた糖分、塩分量等を考慮した食事が提供されている。また摂食量は業務日誌や健康チェック表などで詳細に記録管理され、健康の源である食事の管理が充分なされていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である居間のガラス越しには海が望め、シーズン毎に梅・桜などが咲き乱れる。それらを借景として、室内は家庭的な家具が適度に配置されている。また壁面には入所者による折り紙作品、俳句、行事の写真等が飾られており、居心地の良い雰囲気に満ちている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人が持ち込んだ家具、備品が個性的に配置され、全室にトイレや手洗いが完備されている。各室とも「おらが城」という趣で居心地の良い空間となっている。またツインベッドの居間付きの2人部屋も用意され、夫に労わられながら、共に過ごす入居者の穏やかな顔が見られた。		